今、私たちに出来ること

武蔵野大学 東日本大震災ボランティア支援活動

今年の3月11日（金）に東日本大震災が発生したことを受け、本学でも何か出来ることはないかという声もあり、長い夏季休暇を利用してのボランティア活動が行われた。

『東日本大震災ボランティア支援活動』は、7月19日（火）～ 8月7日（日）と8月23日（火）～ 9月4日（日）の約5週間を、6～7日間ごとに5サイクルに分けて実施され、仙台市内の西本願寺東北教区災害ボランティアセンターを拠点として、石巻市を中心に支援活動を行った。

（木村麻衣子・政経③）

TIME SCHEDULE

一日のタイムスケジュール

6:00	起床 朝食
7:00～7:30	朝のおつとめ（本堂にて読経）
7:40	集合、ボランティアセンターを出発
9:30～10:00	活動先に到着
10:00～10:30	活動開始
12:00～12:55	昼食
13:00	作業再開
15:00	作業終了、片付け
15:30	活動場所を出発
17:30	センター到着
18:00	ミーティング 夕食
22:00	就寝

ボランティア活動に参加する合間に、皆で被災現場を訪れることもあった。津波によって壊れてしまった建物や民家を実際に目にして大きな衝撃を受けた。被害の大きかった南浜の門脇小学校近くの更地には「がんばろう石巻!」の大きな看板と七夕飾りが設置されていて、短冊には訪れた地元の人々やボランティアにより、復興への願いを込めた思い思いのメッセージがしたためられていた。

津波による大きな被害を受けた大川小学校には祭壇が設けられ、たくさんの花が供えられていた。私たちも祭壇の前で手を合わせ、犠牲になった子どもたちや先生方に哀悼の意を表すとともに、一日も早く復興することを願わずにはいられなかった。

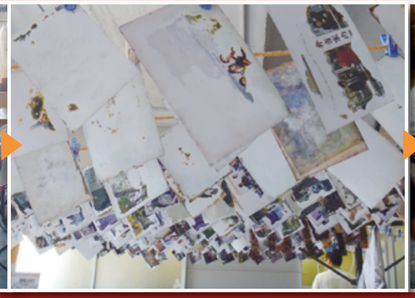
津波で全校児童の7割が犠牲になった大川小学校にも訪れた

称法寺でのがれき撤去作業の様子

称法寺でのがれき撤去作業は、晴天で日差しが強かったこともあって体力的にもかなり大変な作業だった。5~6人ずつのチームに分かれ、それぞれのチームがリーダーの指示に従いながら、協力して作業を行った。1時間作業するごとに15分程度の休憩を取り、水分補給などをして熱中症にならないよう留意しながら行った。作業中や昼休憩の際には、墓参りに訪れた方々から「ありがとうございます」「お疲れ様です」などと声をかけられることもあり、それを励みに皆一生懸命に作業をしている様子だった。

まずは洗浄前に1枚ずつ写真を複写

汚れて状態が悪くなっている写真を1枚1枚水で丁寧に洗浄する



洗浄終了後は、1枚ずつ干して乾燥させる。このように殆ど消えてしまって原型をとどめなくなっているものもある

洗浄が終わった写真は、持ち主が見つけやすいようにアルバムごとに袋詰めする

今回のボランティアでは、旧石巻市役所での写真の「複写」「洗浄」作業が主な活動であった。「複写」は、左の写真のような大きな複写機を使い、被災現場などから見つかった写真を一眼レフのデジタルカメラを使って1枚ずつ撮影していく作業である。（複写機はプロの方が提供してくださったものを使っている。）そして、複写した写真データは、個人ごと、アルバムごと、地域ごとに分類する。これらを東京にいる別のボランティア団体に送り、編集・加工作業をしてもらうそうだ。

「洗浄」は、複写が済んだ写真を水で洗浄して乾かす作業だ。これは、海水に浸かってしまった写真の、バクテリアによる腐食の進行を防ぐために行う作業である。ただ、すでに状態の悪い写真も多く、洗うことで写真が消えてしまうものも少なくない。そのため、「洗浄」をする前に必ず複写を行ってデジタルデータとして残しているのである。

洗浄が終わり乾かされたものは、町ごと、持ち主ごとに分類し、透明なビニール袋に袋詰めする。持ち主が自分のものとすぐに分かるよう工夫して袋詰めしなければならないため、センスが求められる作業である。袋詰めまで完了した写真は、旧市役所の隣にある市民会館に展示する。市民の方々が毎日捜しに来られ、申し出があったものから持ち主に返却している。

東日本大震災被災学生支援寄付金報告

前号で募金のお知らせを掲載した、東日本大震災の被災学生支援のための寄付金募集結果について、以下の通りご報告いたします。

【受付期間】
平成23年4月15日（金）～6月30日（木）
【受付件数】　424件
【募金総額】　17,055,143円

集まった寄付金は、被災学生の修学支援のため、被災の状況に応じて支給させていただきました。皆様の多大なるご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

長野県栄村　災害復興・生活支援ボランティア活動

3月12日（土）に発生した長野県北部地震（最大震度6強）において被害を受けた方々を支援しようと、本学社会福祉学科の学内学会「武蔵野大学社会福祉学会」が『長野県栄村復興・生活支援ボランティア活動』を行い、多くの学生が参加した。

本学社会福祉学会は、毎年ボランティア部が中心となり、ボランティア活動を計画している。今年は栄村内で、7月19日（火）~8月31日（水）の44日間にわたり、1日4人、1人4日間の活動を2人ずつ交代しながら行った。

東日本大震災の被災地に比べてがれきの処理などが進んでいる栄村では、石巻の震災ボランティアとは少し性質が異なり、地元の方のお話し相手になったりお手伝いをすることが活動の中心であった。社会福祉学科の学生ということもあって、福祉の視点を活かしながら栄村の人々と接し、支援活動を行った。

お手伝いをした先々で「ありがとう」と言われたり「また来た時はよろしく」と声を掛けていただいたことが、参加した学生たちにとって大いに励みになったようだ。

栄村の子どもたちと、おやつの白玉だんご作り（「児童預かりボランティア」にて）

学友会執行部 募金活動

東日本大震災発生に伴い、学友会執行部と本学が共同で募金活動を行った。募金活動は4月15日（金）～ 7月22日（金）の期間に行われ、2号館学生課に設置された募金箱に集まった義援金（総額24,888円）は8月8日（月）、学友会執行部の手によって、日本赤十字社東京都支部に直接届けられた。

募金を寄付し、領収書を手に日本赤十字社の方（写真左）と記念撮影する学友会執行部の川嵜佑太さん（政経②）と和田茉莉菜さん（日文②）